

# 【17-A】菱野連区 社会条件

## 【連区の概要】

菱野連区は瀬戸市の南西部に位置し、長久手市に接する。矢田川北岸は主として市街地が広がる一方、矢田川南岸は主として農地および森林が広がっている。主要道路としては県道 57 号が連区を通過している。鉄道は連区を通過してはいないが、近隣に愛知環状鉄道瀬戸口駅がある。

菱野連区



## 【人口および世帯数】

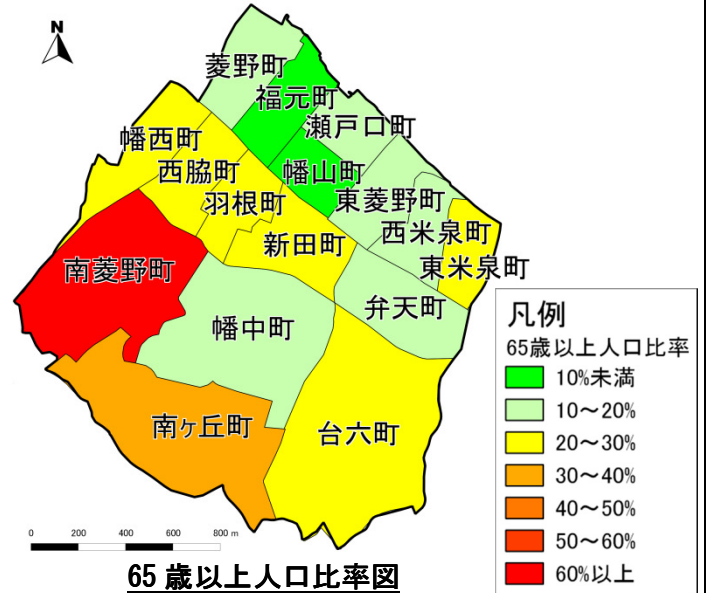
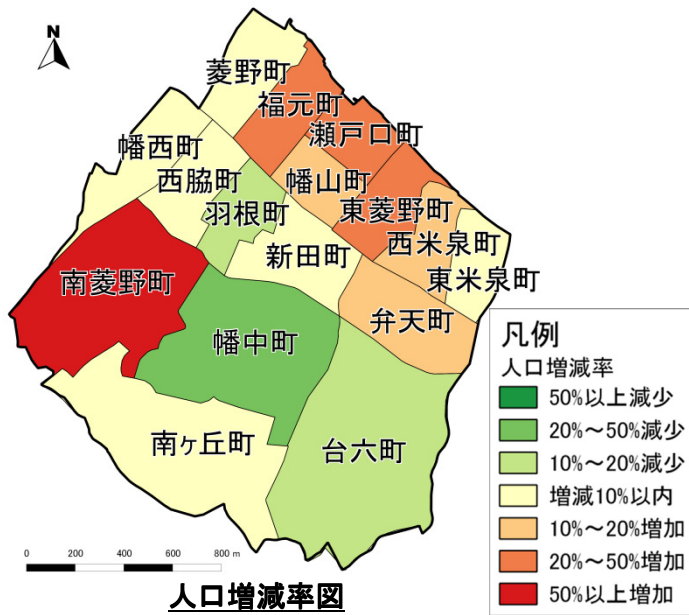
平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、菱野連区全体の人口は 4,852 人から 5,347 人と 10.2%増加し、連区北東部および南菱野町で増加傾向である。また世帯数は 1,712 世帯から 2,039 世帯と 19.1%増加している。

菱野連区全体の 65 歳以上人口比率が 16.8%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 6.5%低い。特に人口が増加傾向にある地域では、南菱野町を除いて 65 歳以上人口比率が比較的低い。

### 階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	836人	15.7%
15～64歳	3,581人	67.4%
65歳以上	893人	16.8%
区分不明	37人	-
連区内人口	5,347人	

※平成22年国勢調査結果より



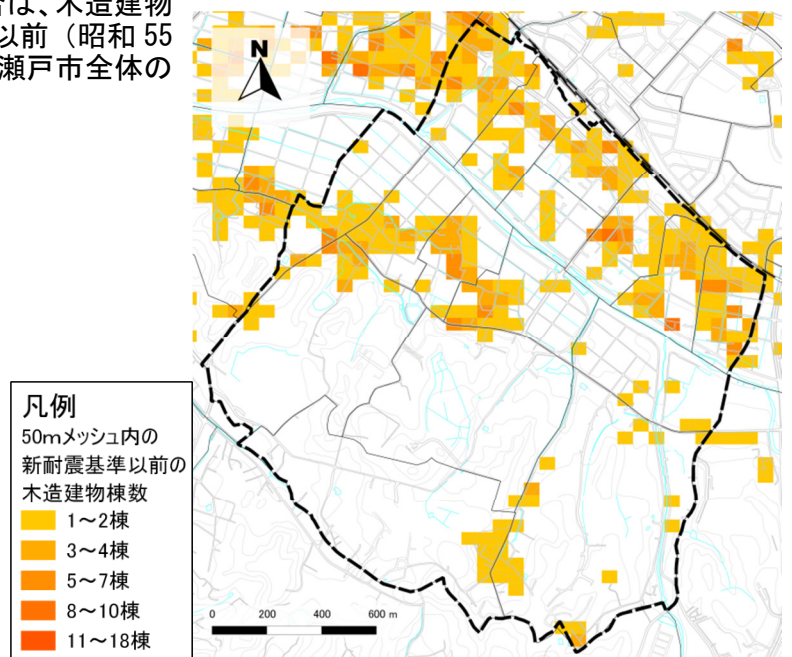
## 【建物】

菱野連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 60.7%、非木造建物 39.3%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 32.8%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて若干低い。

### 木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	223棟	11.5%
	S36～55年	413棟	21.3%
	S56年以降	541棟	27.9%
	計	1,177棟	60.7%
非木造	S45年以前	279棟	14.4%
	S46～55年	81棟	4.2%
	S56年以降	403棟	20.8%
	計	763棟	39.3%
連区内棟数		1,940棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査  
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

## 【17-B】 菱野連区 水害および土砂災害

- 浸水想定区域および土砂災害警戒区域は設定されていない。
- 連区南部に風水害時の避難所までの距離が離れている地域が存在する。

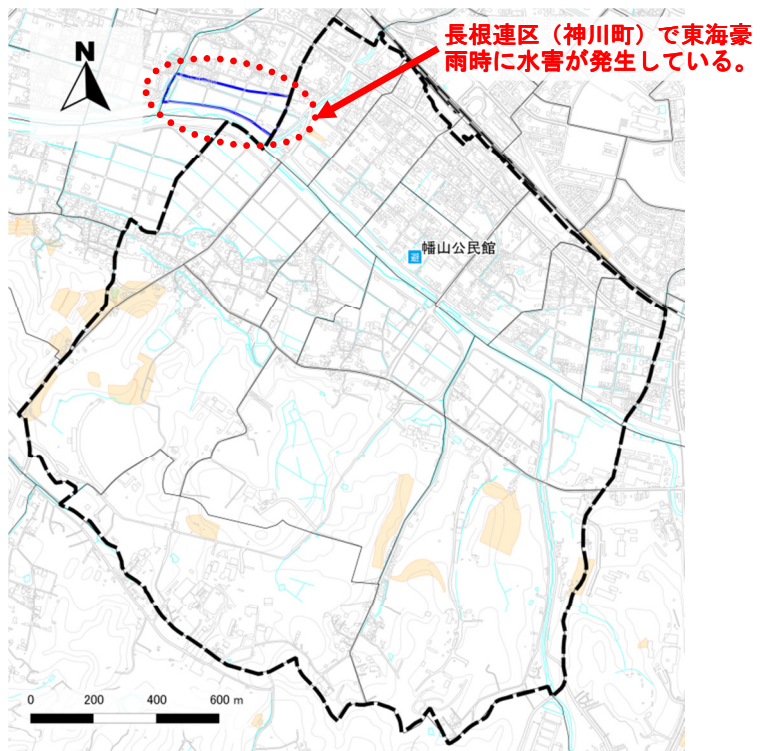
### 【水害および土砂災害箇所】

菱野連区では、浸水想定区域は設定されておらず、近年大規模な水害は発生していない。しかし、隣接する長根連区（神川町）では、平成12年の東海豪雨で浸水した箇所があるため、矢田川沿いの沖積地形（谷底平野）では注意が必要である。

また、土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定されている箇所はないが、急傾斜地崩壊危険箇所が13箇所指定されている。

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
  - 急傾斜地の崩壊（特別警戒区域）
  - 土石流（特別警戒区域）
  - 急傾斜地の崩壊（警戒区域）
  - 土石流（警戒区域）
  - 土石流危険渓流
  - 土石流危険渓流による危険区域
  - 急傾斜地崩壊危険箇所
  - 地すべり危険箇所
  - 既往水害（東海豪雨）



水害・土砂災害危険度図

### 【風水害時の避難所および緊急避難場所】

菱野連区では幡山公民館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。連区南部（南菱野町、南ヶ丘町、台六町など）において、避難所までの距離が700m以上離れている。これら地域では、風水害時の避難所が付近に存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

#### 風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

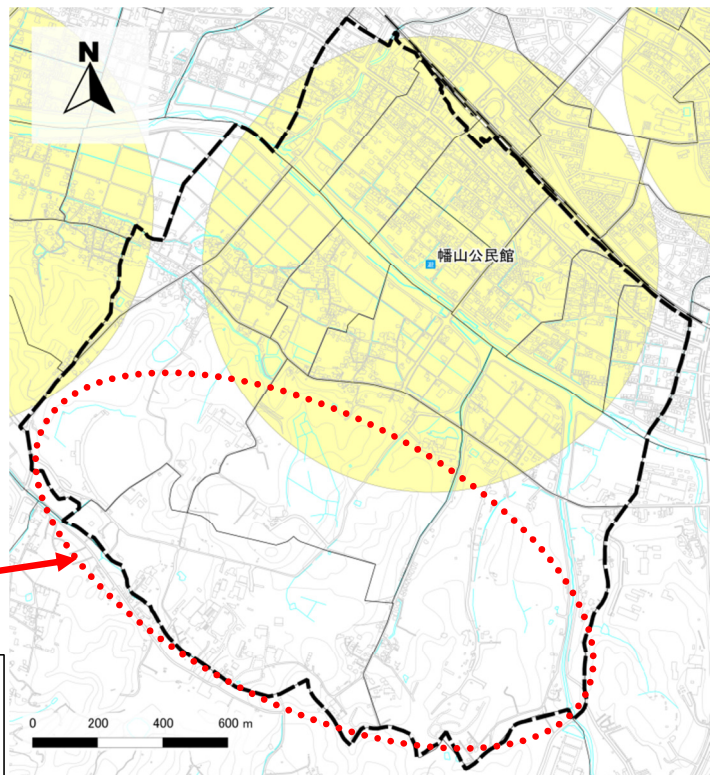
緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
幡山公民館	40人	80人	130人
本地会館【本地連区】	40人	65人	110人
八幡公民館【菱野団地】	40人	80人	130人

※地域防災計画より

連区南部には、避難所まで700m以上離れている地域が存在する。

凡例

- 避難所・緊急避難場所（風水害）
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲（同心円）
- 避難所から700mの範囲



風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

# 【17-C】菱野連区 地震災害

- 矢田川沿いに液状化の可能性が高い地域が存在する。
- 連区のほぼ全域にて、近隣に地震避難場所が存在する。

## 【建物被害および液状化】

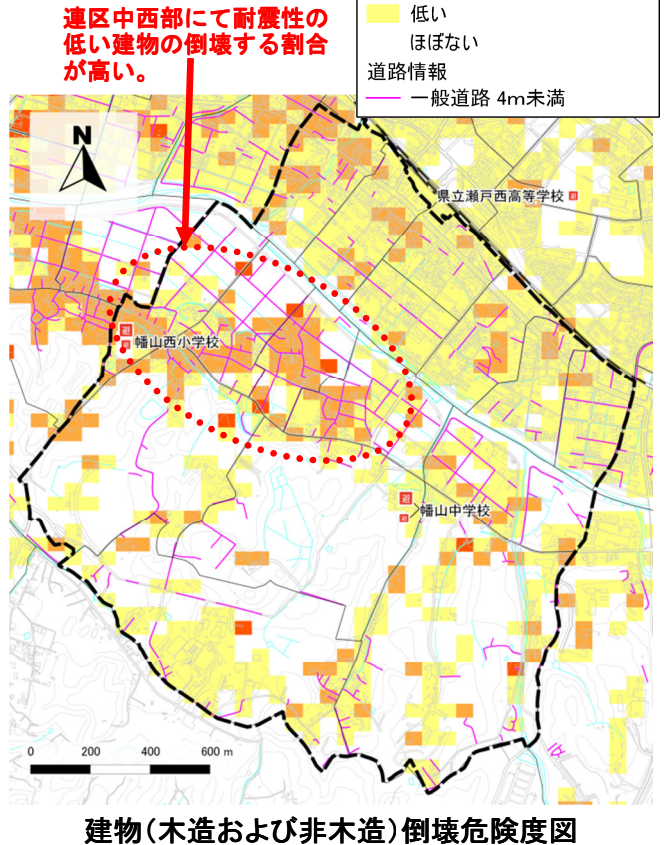
### (1) 建物被害について

菱野連区ではほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。このうち、連区中西部（幡山西町、西脇町、羽根町付近）で耐震性の低い建物の倒壊する割合がやや高い傾向がみられる。

### (2) 液状化について

液状化の可能性のある地域は、矢田川とその支流で形成された沖積地形（谷底平野、扇状地）に分布しており、連区の広範囲を占める。矢田川沿い（西脇町、羽根町、新田町、弁天町、瀬戸口町、東菱野町、東米泉町）には、液状化の可能性が大きい地域が存在する。

凡例  
耐震性の低い建物が倒壊する割合  
■ 高い  
■ やや高い  
■ 低い  
■ ほぼない  
 道路情報  
— 一般道路 4m未満



## 【広域地震避難場所および地震避難場所】

菱野連区では、地震時の避難所および緊急避難場所として幡山西小学校と幡山中学校の2ヶ所が指定されている。近隣連区の避難所も含めると、居住地域のほぼ全域にて700m以内に地震時の避難所もしくは緊急避難場所が存在する。

### 地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
幡山西小学校(運動場)	幡山西小学校	95人	190人	305人
幡山中学校(運動場)	幡山中学校	275人	550人	890人
県立瀬戸西高等学校(運動場)【新郷連区】		※地域防災計画より		

凡例  
 避難所・緊急避難場所(地震)  
■ 避難所  
■ 緊急避難場所  
 避難所等からの対象範囲(同心円)  
■ 避難所から700mの範囲  
■ 緊急避難場所から700mの範囲  
 道路情報  
— 道路傾斜 10度以上  
— 道路幅員 4m未満

